

## 石川県における梅毒の発生動向

◎中村 幸子<sup>1)</sup>、吉川 美彩<sup>1)</sup>、緩詰 沙耶<sup>1)</sup>、北川 恵美子<sup>1)</sup>  
石川県保健環境センター<sup>1)</sup>

【背景】梅毒は梅毒トレポネーマによる細菌性の性感染症で、感染症法に基づく全数報告対象の5類感染症である。比較的症例数が多いこと、安価な診断法があること、治療に有効な抗菌薬があること、また感染した妊婦への適切な抗菌薬治療により母子感染の防止に繋がることなどから公衆衛生上重点的に対策をすべき疾患として位置付けられている。近年、日本国内での梅毒患者の増加が報告されている中、石川県の発生動向を全国の動向と比して解析したので報告する。

【対象・方法】1999年から2022年に全国および石川県において感染症発生動向調査に基づき報告された梅毒について性別届出数の推移、年齢群別、感染経路について解析する。当日は2023年のデータを含めて解析した結果を報告する。

【結果・考察】届出数は石川県、全国ともに2011年まではほぼ横ばいであったが、2012年以降増加傾向に転じ、2019年、2020年にはいったん減少したものの、2021年には再び増加に転じた。2022年の届出数は石川県41人、全

国13,221人と発生動向調査開始以来、最も高い数値であった(図)。性別等詳細に解析した結果、男女とも増加しており、男性は20歳後半～40歳代、女性は20歳代が多く、石川県、全国ともほぼ同様であった。また、石川県の早期顕症梅毒患者の感染経路としては、男女ともに異性間の性的接触が増加傾向にあり、男性の半数以上には性風俗産業の利用歴があった(2020年～2022年)。

連絡先 076-229-2011 (代表)

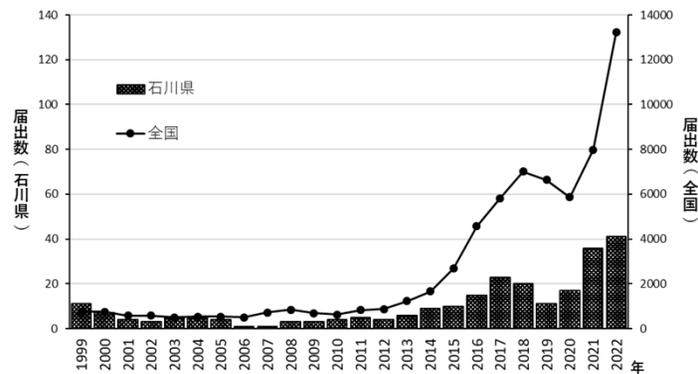


図 梅毒届出数の推移